

# ケーブル技術ショー 2017 報告特集

ケーブルコンベンション2017関連イベント「ケーブル技術ショー 2017」が7月20日・21日に都内で開催された。FTTH、高度BS実用放送、4K/8K、IP放送などの新製品が集まった。この報告特集では、主要ブースの展示と、特に注目した出展企業の最新製品・最新サービスを詳しく紹介する。（渡辺 元・本誌編集長）

## 10G-EPONとXGS-PONで 10GbpsのFTTH化

ケーブル技術ショー 2017では、10G-EPONやXGS-PONによる10GbpsのFTTH、2018年末開始の高度BS実用放送に対応した第3世代STBや伝送機器、さらに4KコンテンツのIP伝送に関する新製品が目立った。主要ブースで注目した展示をレポートする。

ARRISグループは自社ブースを設けなかったが、代理店の伊藤忠ケーブルシステム、SCSK、シンクレイヤのブースで製品展示を行った。CCAPプラットフォーム「E6000 CER」は10G-EPON OLTモジュールの新製品を実装してデモ展示。10G-EPON OLTモジュールはDOCSISカードと混在させて「E6000 CER」に実装できる。HFCからFTTHへの移行期で、両サービスを同時に



CCAPプラットフォーム「E6000 CER」から新製品の10G-EPON OLTモジュールを引き出したところ

提供するケーブルテレビ局にとって利便性が高い。そのほかノード搭載型10G-EPON OLT、10G-EPON ONUなども展示した。

伊藤忠ケーブルシステムはNOKIA製のG-PON、XGS-PON、NG-PON2のFTTH

システムを提案した。G-PONは2.5Gbps、XGS-PONは10Gbps、NG-PON2は40Gbpsだ。G-PONについては、パッシブでの最長伝送距離が60km、1芯3波伝送対応などの特長を活かせる。集合住宅向けソリューションとしては、集合住宅の既設同軸ケーブルを活用するMicroCMTS、イーサネット信号を既設同軸ケーブルを使って伝送する同軸モデムのHPNAなど、集合住宅の巻き取りに向けた製品を展示した。

関電工の今回の展示テーマは「今、確かな技術でFTTH化を全力サポート。」。FTTH化に関しては、同社が開発した「柱上ONU クロージャー」を展示した。加入者引込線のリニューアルでの利用を見込んだ製品だ。FTTHだけでなくHFC関連も、同社が扱う海外製CMTSを展示。道路を掘り返さず管路の埋設が可能なアリトン工法など施工技